

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

遠足の列をのみ込む大手門

岡本とも子

(評)春は暖かく、日も永いので最も遠足に好適な季節、一年中で一番屋外行事が多くある。「大手門」は城の正門を指しており、掲句の城も多分高知城であろうが、団体で入城するとなれば矢張り大手門からであろう。春のお城の二の丸、三の丸、桜もキツト見事な春を演出してくれたのではなからうか。

薇の茹で上りたる緑かな

竹崎 光子

(評)「ぜんまい」も「わらび」と同様に若芽の葉が開かないうちに摘みとって茹

で、それを干し上げたものを食用として保存するが、この句の「緑」は、その保存されるときの状態であり「緑かな」は時期的にややおくれているのではなからうか。

帰途のバス皆無口なり花疲れ

津田 久美

(評)花見遊山帰りのバス、周囲に心遣いのいない者同志、胸襟を開いての花見会、久し振りの集まりだっただけに事後の疲れの程が想像される。

豊かさや湖水に映る花あかり

川村 博子

(評)花といえば桜、それはそれでいい、季語が句のなかで生きて呼吸する実体を、明確に印象づけており、この句からその氣息と芸の醍醐味を掬って季節のうつとりとしたよろこびに浸ることができ

しつとりと枝垂れ桜古都の雨 刈谷 志津

白壁に水音返す花の冷え 友草 水月

咲き満ちて花の三日を惜みけり 大川 節弥

手術後の経過はよろしつばめ来る 井上 郁子

薫風が四・五ページほど拾い読む 間 浩太

媼逝き訪う人のなく草萌える 片岡 包女

花冷えや暮しが見えぬ過疎の里 森岡 照月

春日傘さして愉しき影生る 伊藤 萩甫

下見来る燕へ車庫を開け放つ 竹崎たかひろ

下萌や庭広々と一輪車 弘瀬うき子

鯛やきの匂う出店やさくら散る 筒井 正子

咲き初めし牡丹桜や乙女の香 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」
締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

867-2133

ご注意
22年出水期から
気象警報が変わります!!

気象庁では、22年出水期から、警戒の必要な地域をより分かりやすくするため、気象警報・注意報を、市町村を対象として発表します。これまで、この町に災害発生の際には、高知中央、あるいは「高知県中部」に対して警報・注意報を発表していましたが、22年出水期からは、「いの町」と明示して発表します。これによりお住まいの場所が警戒の対象となっていることが分かりやすくなりました。

また、大雨警報を発表する際には、特に警戒が必要な災害を、「大雨警報(土砂災害)」、「大雨警報(浸水害)」のように警報名を併せてお知らせします。

大雨や洪水などの警報は、テレビやラジオなどで放送されます。この際、画面の文字数や読み上げ可能な文章の範囲内でもより分かりやすく伝えるため、これまでどおりの表現で放送される場合があります。

市町村ごとの詳細な内容は、気象庁ホームページ(アドレス: <http://www.jma.go.jp/>)や国土交通省防災情報提供センターの携帯サイト(<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaiho/i-index.html>)に掲載予定です。

お問い合わせ
高知地方気象台防災業務課

822-8882

